

団体名

「ねりま」で育って良かったプロジェクトチーム

事業名



「ねりま」で育って良かったプロジェクト
～未来につなぐ「ねりま」のひと・もの・こと～

メンバー一覧

	氏名	所属
代表	長島 良介	元練馬区教育委員
	矢野 伸一	青少年委員会 元会長
	山本 勝一	石神井太鼓保存会せんば太鼓会長/練馬区文化団体協議会 監査
	高橋 俊顕	私立幼稚園副園長/区立小学校PTA会長
	有野 陽一	区立小学校PTA元会長/区立中学校 PTA元会長
	小松 博光	青少年育成地区委員
	深野 潤	区立小学校 学校支援コーディネーター
区職員	河野 由紀	氷川台福祉園
	木下 雄人	人材育成課職場環境係
	瀬戸 夏希	協働推進課協働事業担当係

事業目的

- ① 「練馬にはこんな場所があるんだ！」
「あんな人がいるんだ！」など、
自分の住むまちの良さを子どもたちにもっと知ってもらおう。
- ② 子どもを含め、事業に関わるすべての人が、
練馬の魅力を区内外に発信し、未来につないでいく人材となる。

3年間の到達目標 = 「ねりま」との関わりと気持ちの変化

“ねりま❤️”の高まり

偶発的・受動的

主体的・能動的

愛着

誇り

到達目標



スタート時

親しむ・知る
発見する



もっと好きになる



伝えたい
残していきたい



より良くしたい
役に立ちたい



3年間の事業計画（4つの柱）

単年度 プロジェクト

- 小学4年生20名程度を対象とした通年プログラム（参加者固定）の実施。区内各所の見学・体験等を通して、自分の住むまちねりまに存在するたくさんの「ひと」「もの」「こと」に触れ、様々な魅力の発見からその経験の発信までを体験する全7回の連続講座。

複数年 プロジェクト

- 単年度プロジェクトでの経験やさまざまな取材等を通じて、子ども目線の練馬区の魅力をまとめたガイドブックを作成する。親子で出かけたり、地域等の団体が青少年対象のミニ遠足を実施したりする際などに広く活用してもらえるような内容とする。

発信 プロジェクト

- 子どもたちに伝えていきたいスポット・イベント・地域団体活動などへ青年リーダーまたは事業参加児童が取材・体験に赴き、「行ってみた」「やってみた」「聞いてみた」動画を収録する。公式YouTube等を通じ、若い視点での練馬区の魅力を広く発信する。

体験イベント

- プロジェクトメンバーからの提案等で、本プロジェクトの趣旨に合致し、実施が望ましいと判断される企画については、広く参加者を募り、単発イベントとして実施。

※実施にあたり、効果検証（アンケート）や、事業目的に応じた行政施策との連携も行っていく。

令和2年度の取組

Planning

単年度プロジェクトの事業内容検討

新型コロナウイルス感染症拡大を受け、事業1年目からの本格実施は見送った。

→その分、区内で活躍する青年リーダー（※）との協働で、事業のアイデア出し、関係構築の1年とした。

○ 青年リーダーとは

仲間づくりのリーダーとして、地域におけるさまざまな活動において中心的役割を担う青少年ジュニアリーダー(小学校高学年～中学生)の養成講習の指導補助を担っている。



Event

キックオフイベントの開催

- ① 「ねりま」で育って良かったプロジェクトのPR
- ② コロナ禍でも子どもたちに楽しんでもらうイベント

→上記2点を目的としたキックオフイベントを開催



前年度からの課題

課題 1

青年リーダーとの連携体制の強化

課題 2

単年度プロジェクト

（「知ってる？『ねりま』発見ツアー」）

→ 「ツアーに参加して楽しかった」という感想で終わらないような工夫

→ 子どもたちが主体的・能動的に地域に関わっていく仕組みづくり

課題 3

集客のリアルイベントができない中で、子どもたちに練馬の魅力を伝えていく工夫

令和3年度の取組

取組 1

- ・ オンラインを活用した企画検討
- ・ 取材等への協力依頼

取組 2

事業計画（ツアープログラム）詳細検討

⇒今年度もコロナ禍でツアー実施を見送り。

打合せや実踏を通して、詳細のプログラムをつめる一年とした。

取組 3

発信プロジェクトの充実

- ・ YouTubeでの体験動画配信
- ・ Instagram／Facebookで練馬区情報を発信

令和3年度の取り組み① 青年リーダーとの連携体制の強化

○企画検討や取材、撮影への協力

- ・LINEグループ等を活用し、事業の進行状況を、青年リーダーに共有。
- ・ツアー企画の検討会議のほか、発信プロジェクトの取材や撮影の予定を都度案内し、負担にならない範囲で、自主的な参加を喚起した。

✓青年リーダーを交えたミーティング、取材等の実施回数：13回

✓うち青年リーダーの参加延べ人数：38人



企画会議、取材、撮影の様子

参加した青年リーダーの声

「アイデア出しやYouTubeの撮影など、貴重な体験だった」

「様々な魅力を発見し、共有する取組は画期的だと思った」

「YouTube撮影など、地域に出る機会があったら、ぜひまた参加したい」

青年リーダーへのアンケート

★青年リーダーのみさんへ★「ねりま」で育って良かったプロジェクトアンケート【回答期間 2/10(木)～2/23(水・祝)】

当プロジェクトは、いよいよ、子どもたちに向けたツアーや各企画を本格的に始動させていきます。
R4年度に向けて、これまでの活動を振り返り、「もっとこんなことをしてみたい!」といったみなさんの意見、要望、アイデアを聞かせていただきたいです!
今後の活動計画の参考にさせていただきますので、自由な意見を書き込んでいただけたら嬉しいです。よろしくお願ひします。

Googleにログインすると作業内容を保存できます。詳細

1 プロジェクトに参加したきっかけを教えてください。(複数選択可)

- 楽しそうだったから
- 地域の役に立ちたいと思ったから
- 子供が好きだから
- 練馬が好きだから
- 人と関わることが好きだから
- 自分自身の成長のため
- 就職活動に役立てるため
- 頼まれた/誘われたから
- などとなく
- その他:

令和3年度の取り組み② 単年度プロジェクト事業計画検討

単年度プロジェクト 「知ってる? 『ねりま』 発見ツアー

対象 区内在住・在学の小学4年生 (20名)

内容 区内のさまざまなスポットを巡る
体験型通年プログラム

前半

子どもたちが「ねりま」の魅力を
知る・体験するプログラム

後半

子どもたちが「ねりま」の魅力を
振り返り、自らの言葉で**まとめる**
プログラム

令和4年度ツアー実施計画 (案)

日付	内容
5/29(日)	開講式・オリエンテーション
7/3(日)	伝統・文化・芸術コース
9/11(日)	暮らしコース
11/13(日)	アニメコース
12/11(日)	農業コース
1月	まとめイベント①
2月	まとめイベント②・閉講式

令和3年度の取り組み②

単年度プロジェクト事業計画検討

開講式・オリエンテーション
(5月29日予定)

行先

練馬区立石神井公園ふるさと文化館



ふるさと文化館展示室



旧内田家住宅

内容(案)

- ・ふるさと文化館の展示物を使いながら、
⇒練馬区の歴史・特徴を、学芸員の方に解説いただく。
- ・ふるさと文化館を探検(クイズラリー)
⇒グループに分かれて、ふるさと文化館を探検。
クイズラリーも兼ね合わせ、
自分たちで「ねりま」に関する情報を探す。

企画の ポイント

- 参加者同士の距離が縮まるような、レクリエーションを取り入れる。
- 今後始まる各コース(アニメ、農業など)に向けて、
興味が湧くような導入の回、予備知識を入れる回とする。

令和3年度の取り組み② 単年度プロジェクト事業計画検討

伝統・文化・芸術コース（7月3日予定）
タイムマシーンで旅をしよう～過去・現在・未来～

行先

- ・ 唐澤博物館
- ・ 豊玉リサイクルセンター



唐澤博物館



間伐材でMY箸づくり

内容（案）

- ・ 昔の学校・生活クイズ
⇒ 昔の学校用品や、生活道具などが多数展示されている唐澤博物館を見学。
クイズを用意し、自分たちで答えを探し出す。
- ・ 間伐材でMY箸づくり体験
⇒ 未来につながる3Rの取り組みを学び、
間伐材を使ったMY箸づくりに挑戦



展示物（いずめ）



展示物（鞘絵）

企画の
ポイント

- “唐澤博物館”という区内では知る人ぞ知るスポットで、昔の生活・学校と現在との違いに触れる。
- 間伐材の有効利用方法について学びながら、練馬区のみどりを大切にする意識も持ってもらう。

令和3年度の取り組み② 単年度プロジェクト事業計画検討

暮らしコース（9月11日予定） 「緑の風を感じよう」ツアー

行先

- ・ こどもの森（羽沢2丁目）
- ・ 城北中央公園（氷川台1丁目）
- ・ 練馬駐屯地（北町4丁目）（※調整中）



公園内にある栗原遺跡



練馬駐屯地の資料館

内容（案）

- ・ 自然観察や工作等
⇒こどもの森で育てている野菜や植物に触れる。
⇒工作などを通して、アイデアを形にする楽しさを知る。
- ・ 栗原遺跡の見学や公園の散策等（竪穴式住居の説明）
- ・ 自衛隊による訓練展示や資料館の見学等
⇒自衛隊は普段どんな仕事をしているのかを知る。



こどもの森内の畑



こどもの森の工作コーナー

企画の ポイント

- 身近な自然や、楽しさなどを実感する。
- 昔の暮らしの様子や、現在の自分たちの暮らしを支えてくれている人達について知るため、子どもたちが実際にインタビューを試みるなど、子どもたちそれぞれの気付きや学びが生まれることを目指す。

令和3年度の取り組み② 単年度プロジェクト事業計画検討

アニメコース（11月13日予定）
ねり丸かくれんぼ！～アニメのまち・ねりま～

行先

- ・ココネリ（研修室）
- ・練馬区役所庁舎
（議場・各ユニバーサルデザイン設備等）



西庁舎8階の議場



ユニバーサルデザイン設備の一例

内容（案）

- ・ねり丸アニメ視聴
⇒アニメを通じて練馬の魅力を知る。
- ・ねり丸かくれんぼ！（庁内探索型ゲーム）
⇒ねり丸を探しながら、庁舎内の様々な施設や設備（ユニバーサルデザイン等）の役割を学ぶ。
- ・株式会社動画工房によるアニメ教育プログラム
⇒アニメの成り立ちや歴史を学び、実際にパラパラアニメの作成体験をする。



ねり丸アニメのワンシーン



パラパラアニメ作成体験の風景

企画のポイント

- 作成するパラパラアニメは、「未来の自分へのメッセージ・10年後の練馬区」など子どもたち自身が練馬区についてより深く考えられるような要素を盛り込む。
- 議場見学やユニバーサルデザインについて学ぶ時間は、作成するアニメのアイデアにつなげられるような内容とする。

令和3年度の取り組み② 単年度プロジェクト事業計画検討

農業コース（12月11日予定） 「練馬を食べよう！～収穫・調理～」

行先

- ・高橋農園
- ・鈴木農園
- ・南大泉地区区民館



レクルーム



調理室

内容（案）

- ・野菜収穫体験
→練馬の農産物に触れる
- ・大根引っこ抜き体験
→練馬の農業や大根について、農家の方の話を聞く。
- ・練馬スパゲティづくり
→自分で引っこ抜いた大根を、講師（食育ボランティアまたは飲食店シェフ）の指導のもと、調理する。
- ・レクリエーション
→青年リーダーの強みを活かし、レクルームで体を動かす。



大根の収穫体験

企画の ポイント

- 世界から注目されている練馬の農業を少しでも身近に感じてもらうため、収穫体験から調理、実食までを一挙に体験してもらう。
- 青年リーダーが中心となって、レクリエーションを行い、楽しみながらコミュニケーションを養うことを目指す。

令和3年度の取り組み②

単年度プロジェクト事業計画検討

まとめイベント（1・2月）
・閉講式（2月）

会場

ココネリ（研修室）

内容（案）

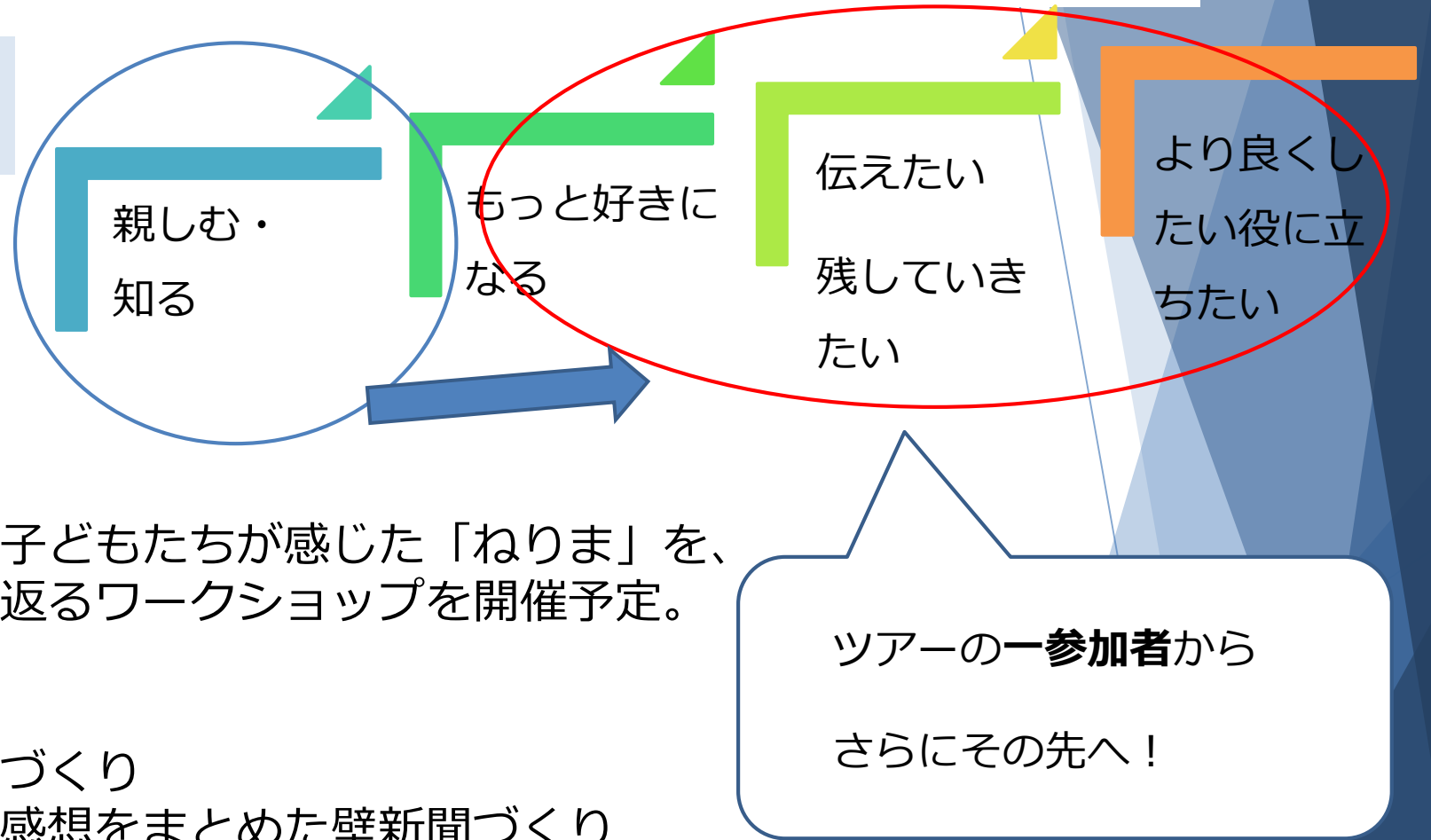
これまでのツアーを通して、子どもたちが感じた「ねりま」を、子どもたち自身の言葉で振り返るワークショップを開催予定。

（案）『ねりま』の魅力新聞づくり

・これまでまわったツアーの感想をまとめた壁新聞づくり



ツアーの参加者が、ジュニアリーダー→青年リーダーへ進んでいくことで、地域活動の担い手サイクルが出来上がることを期待。



ツアーの**一参加者**から
さらにその先へ！

令和3年度の取り組み③ オンラインの活用（発信プロジェクトの充実）

○発信プロジェクトの目的

子どもたちに伝えていきたい練馬区のスポット・イベント・地域の活動などを取材し、写真や体験動画などを用いて、SNSで紹介する。

→自分が住む地域だけでなく、練馬区各地の魅力を知り、興味を持ってもらう。

→現地に行けない人にも、練馬の魅力を疑似的に体験してもらう。



体験取材の様子

○取組内容（3月15日時点）

YouTube（9月～）

動画投稿件数 8件
総視聴回数 1,013回



出演者は、ターゲット層に近い世代が中心

Instagram（6月～）

投稿件数 34件
フォロワー数 186人



Facebook（6月～）

投稿件数 30件
フォロワー数 76人



令和3年度の取り組み③ オンラインの活用（発信プロジェクトの充実）

○SNS読者・視聴者に向けたアンケート（回答数21件）

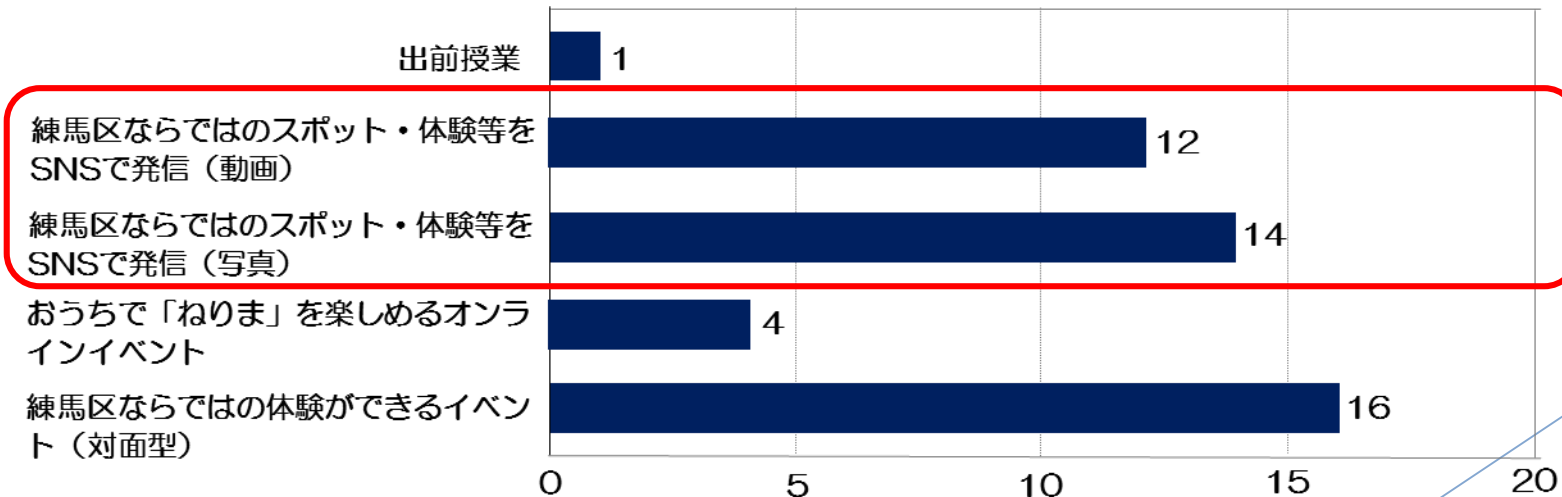
ね
ら
い

- ・読者・視聴者層の属性把握。
- ・投稿に対する反応の把握。
- ・ニーズの把握。

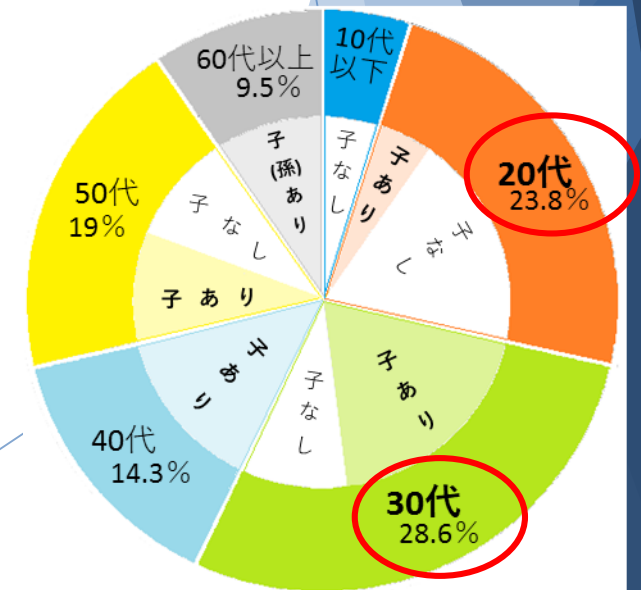
結
果

- ・回答者の約半数は、区内在住の20～30代
- ・20代は仕事等で子どもに関わる人、30代は子育て中の人を中心。
- ・SNSを知ったきっかけは、「知人の紹介」が40%
- ・SNSでの「練馬区ならではのスポットや体験等の発信」は、対面型のイベント開催に次いでニーズが高い。

<今後あると良いと思う取り組み>



<回答者の年齢分布>



令和3年度の成果と今後に向けた課題・目標

成果①

青年リーダーとの協力体制を強化

単年度プロジェクトの打合せ、実踏を進めることができたほか、YouTube撮影等の企画に参加してもらうことで、関係を一層深めることができた。

今後の 目標

青年リーダーの活躍の場を広げ、練馬の子どもたちのひとつのモデルに

青年リーダーが子どもたちにとってより身近な存在となり、ひとつのモデルとして広く認知されるよう、行政と連携しながら活躍の場を広げる。

成果②

単年度プロジェクト ツアープログラムの詳細検討

今年度も開催は見送ったものの、実踏を通して、プログラムの実現可否を判断することができたほか、協力団体との関係構築ができた。

今後の 課題

運営を通して見える課題の整理や効果検証

課題発見や効果検証を行えるのが協働期間中1回のみとなった。
より効果的な見直しができるよう、1日程の実施ごとに丁寧な振り返りを行う。

令和3年度の成果と今後に向けた課題・目標

成果③

より広い層へ周知できるSNSの活用

オンラインでも、練馬の魅力を発信するチャンネルができた。
またアンケート等を通して、一定の評価や反応を確認することができた。

今後の 課題

認知度の向上&安定した更新

ターゲットのニーズを捉えた情報発信を意識し、更新頻度を上げて、
より多くのファンを獲得していく。

令和4年度の計画

	単年度プロジェクト 知ってる？『ねりま』ツアー	体験 イベント	複数年 プロジェクト	YouTube	Instagram Facebook
令和4年 4月	参加者募集				
5月	開講式				
6月			ツール 検討		
7月	伝統・文化・芸術コース				
8月		イベント ①			
9月	暮らしコース			月1回 更新	週1回 更新
10月					
11月	アニメコース				
12月	農業コース		作成 準備		
令和5年 1月	まとめイベント①				
2月	まとめイベント②／閉講式				
3月		イベント ②			

令和5年度以降の展望

① これまでの活動の結晶化

- 単年度プロジェクトや追加取材を通して集めた、さまざまな「ねりま」をより多くの人々に伝えるための効果的なツール（令和4年度中に検討）を実際に完成させ、区内での周知と活用を目指す。

② 青少年事業との連携

- 青少年課との連携を深め、地域おこしプロジェクト卒業後も安定した運営体制、継続性を目指す。



令和5年度以降の展望

③ 汎用性のあるモデルづくり

- 区との協働で様々な資源を開拓し、区内団体・事業者等との協力関係を構築するとともに、実績を上げて活動の認知度を高め、地域に密着した活動の定着
- 練馬区の資源を最大限活かした、子どもたちの地域愛の醸成に資するプログラムを積み重ね、汎用性のある事例（モデル）として発信

当団体だけでなく、活動を通じて関係を築いた区民・地域団体やPTAなど
→ **さまざまな主体**がイベント（※）を行う際に、モデルを活用することで、
練馬の良さを知り、地域への愛着をより強く持つ子どもを増やす

※ 例：青少年関係団体の交流事業、子ども会のミニ遠足 など